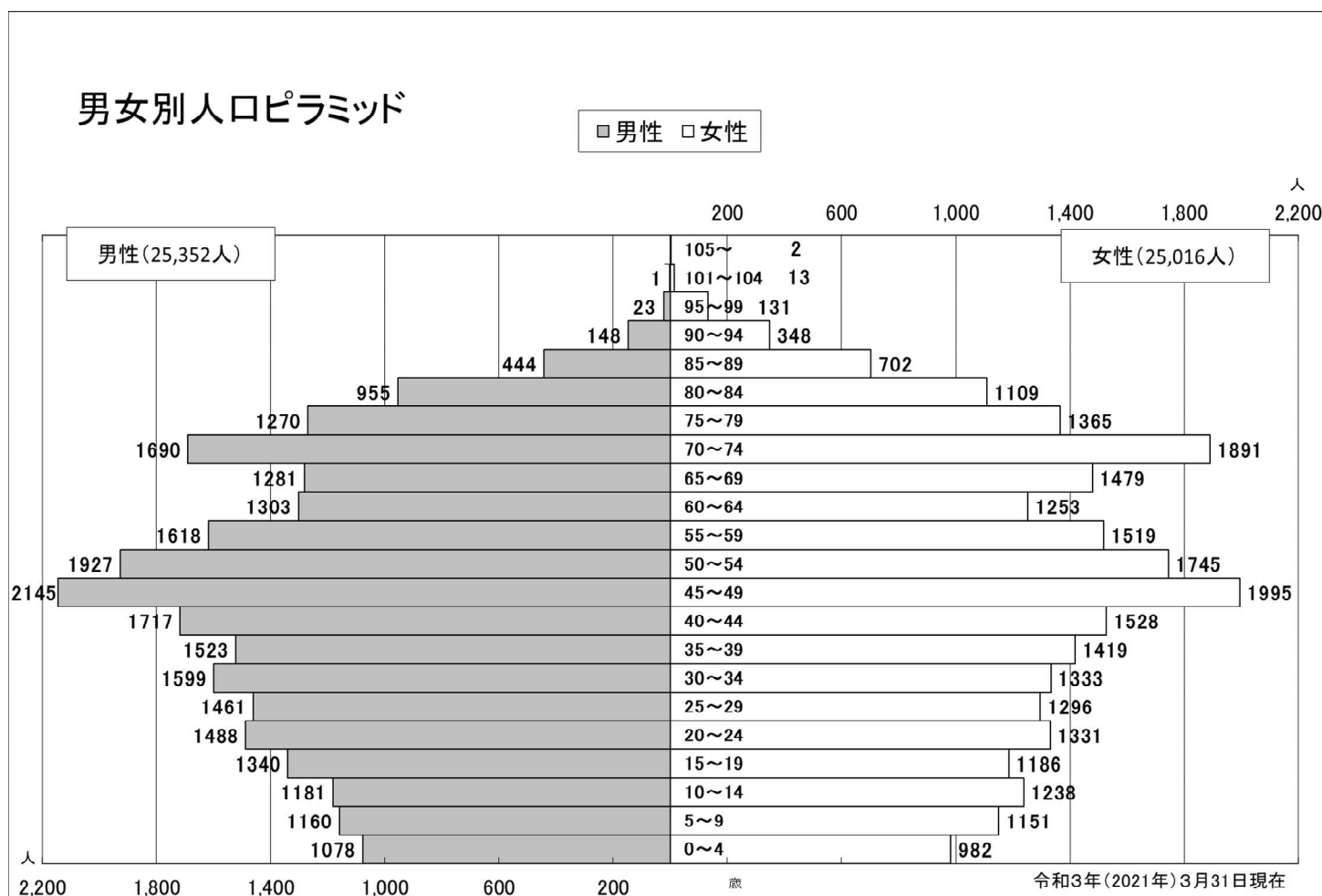


第2章 東浦町の現状

男女共同参画をめぐる東浦町の現状に係るデータを掲載しています。出典について特に記載のないものは、令和元年（2019年）に実施した「男女共同参画に関する住民アンケート」の結果報告書より抜粋しています。

1. 人口の状況

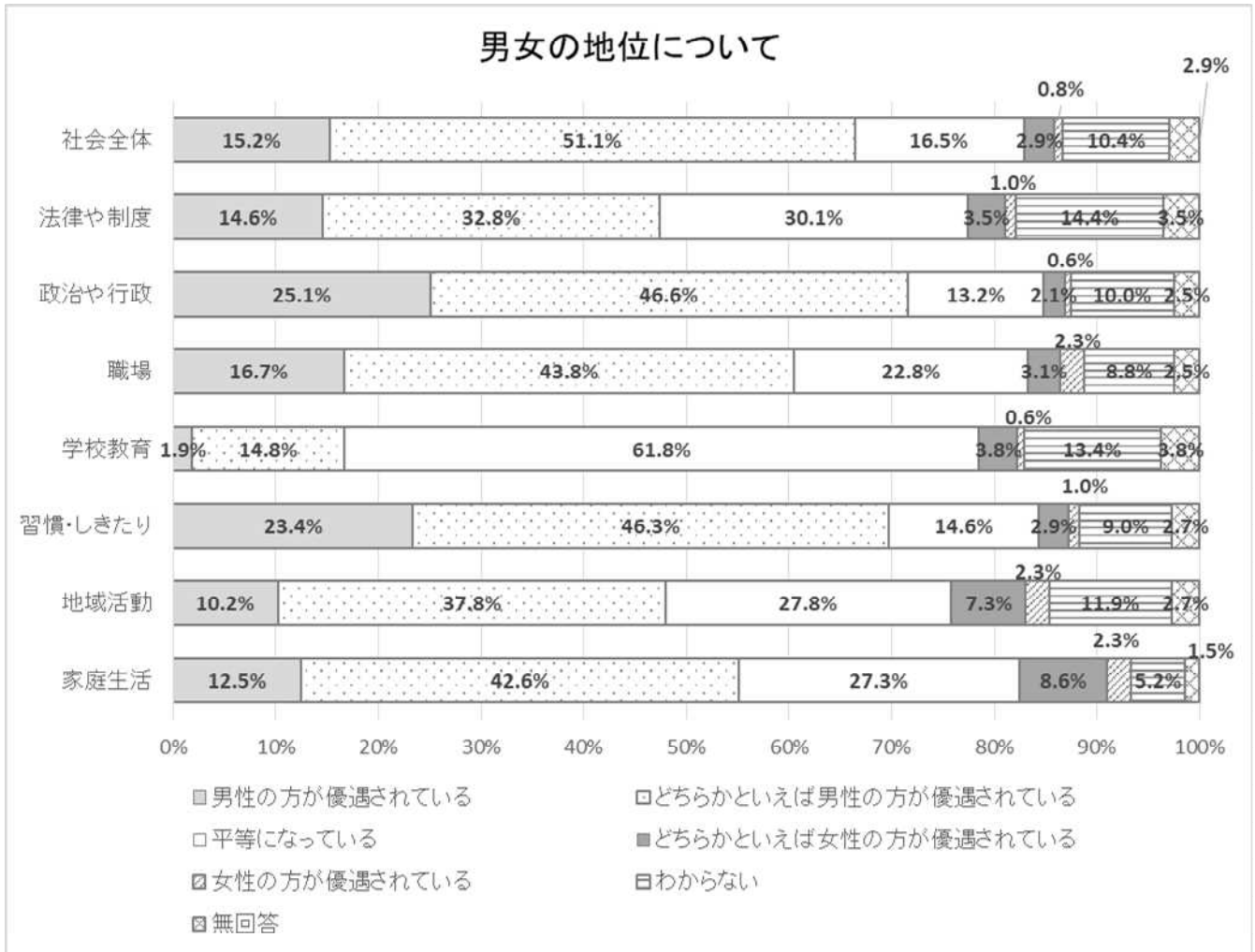
東浦町の人口を性別・年代別に表すと、下図のようになります。底辺がすぼんだ「つぼ型」になっており、本町においても少子化が進んでいることが読み取れます。また「団塊の世代」及び「団塊ジュニア」の人口が多く、「団塊の世代」はまもなく後期高齢者の年齢に達します。



住民課データを基に作成

2. 男女の地位の平等感

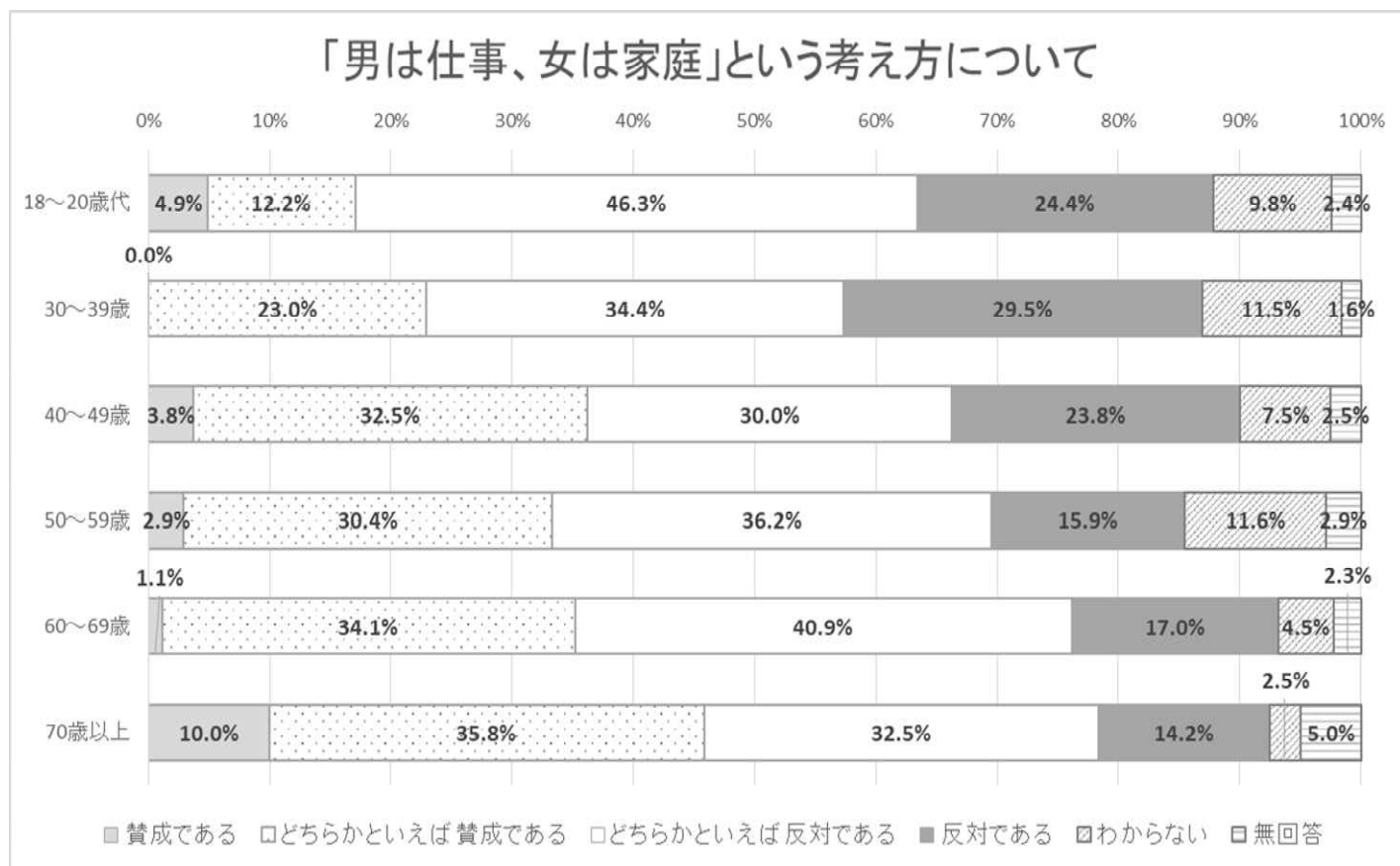
「社会や生活の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか」という設問に対し、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が特に多いのは「政治や行政」「習慣・しきたり」の項目で、約70%です。



3. 固定的性別役割分担意識

「『男は仕事、女は家庭』という考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか」という設問に対し、年代別に回答を見ると、全ての年代において「反対派」が「賛成派」を上回っていますが、70歳以上においては賛成派が45.8%、反対派が46.7%と、ほぼ同数となっています。最も「賛成派」と「反対

派」の差が大きいのは18歳～20歳代で、「賛成派」が17.1%、「反対派」が70.7%と、反対派が賛成派の約4倍の割合を占めています。

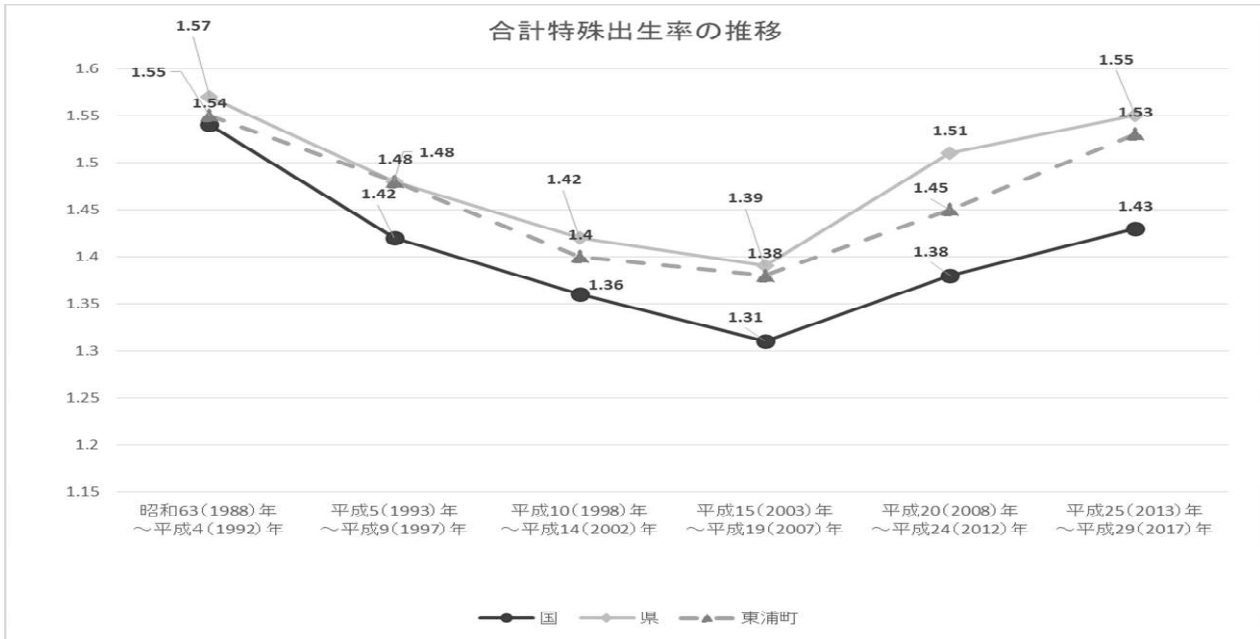


また、前回調査（平成27年（2015年））と比較すると、前回調査では「賛成派」が「反対派」を上回っていたのに対し、今回の調査では「反対派」が「賛成派」を上回っています。また、国及び県と比較すると、愛知県よりは「反対派」の割合が多くなっていますが、国よりは「反対派」の割合は少なくなっています。全国と比べると、本町では未だに性別役割分担意識が根強く残っていることが分かります。

	賛成又はどちらかという と賛成	反対又はどちらか という反対	わからない・無回答
東浦町(令和元年(2019年))	35.1%	54.5%	10.4%
東浦町(平成27年(2015年))	47.2%	38.3%	14.5%
愛知県(令和元年(2019年))	40.7%	50.6%	8.6%
国(令和元年(2019年))	35%	59.8%	5.2%

4. 出生の状況

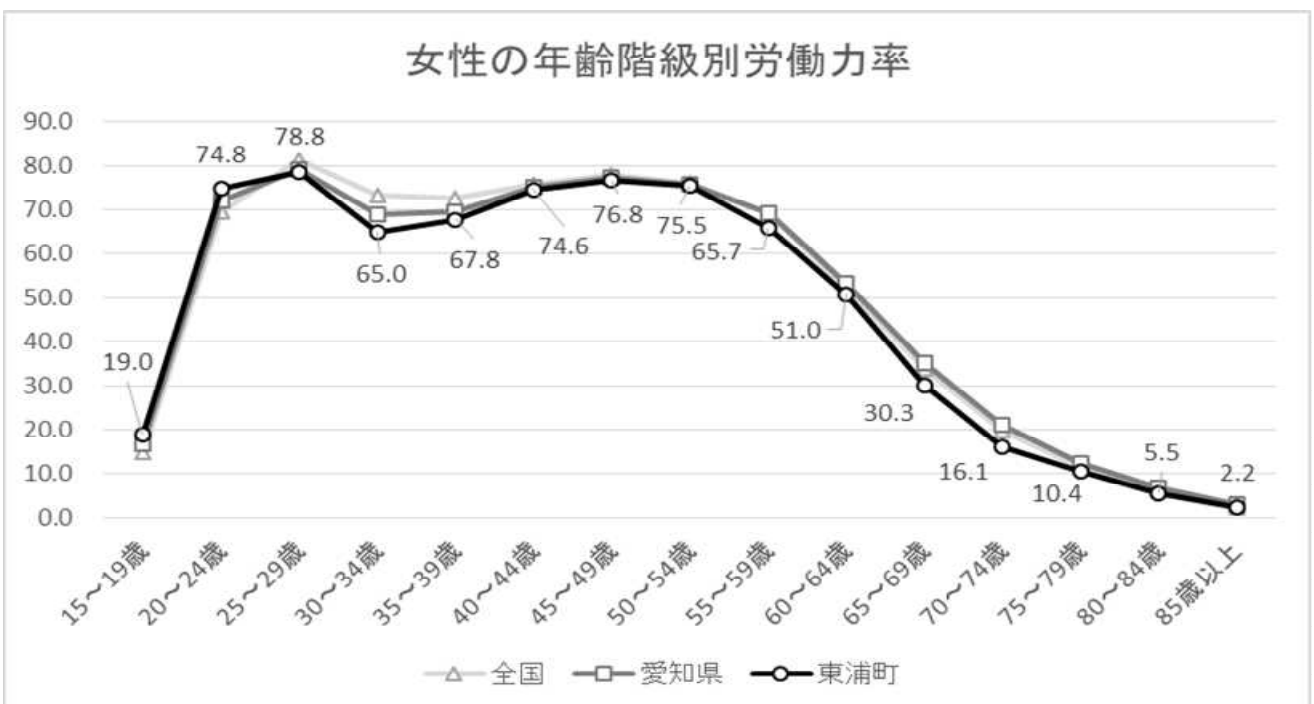
合計特殊出生率（1人の女性が一生の間に生む子どもの平均の数）を見ると、東浦町はおおむね国や県と同様の推移をしています。東浦町の合計特殊出生率は国よりは高いですが、県よりは低い傾向にあります。



※厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」を基に作成

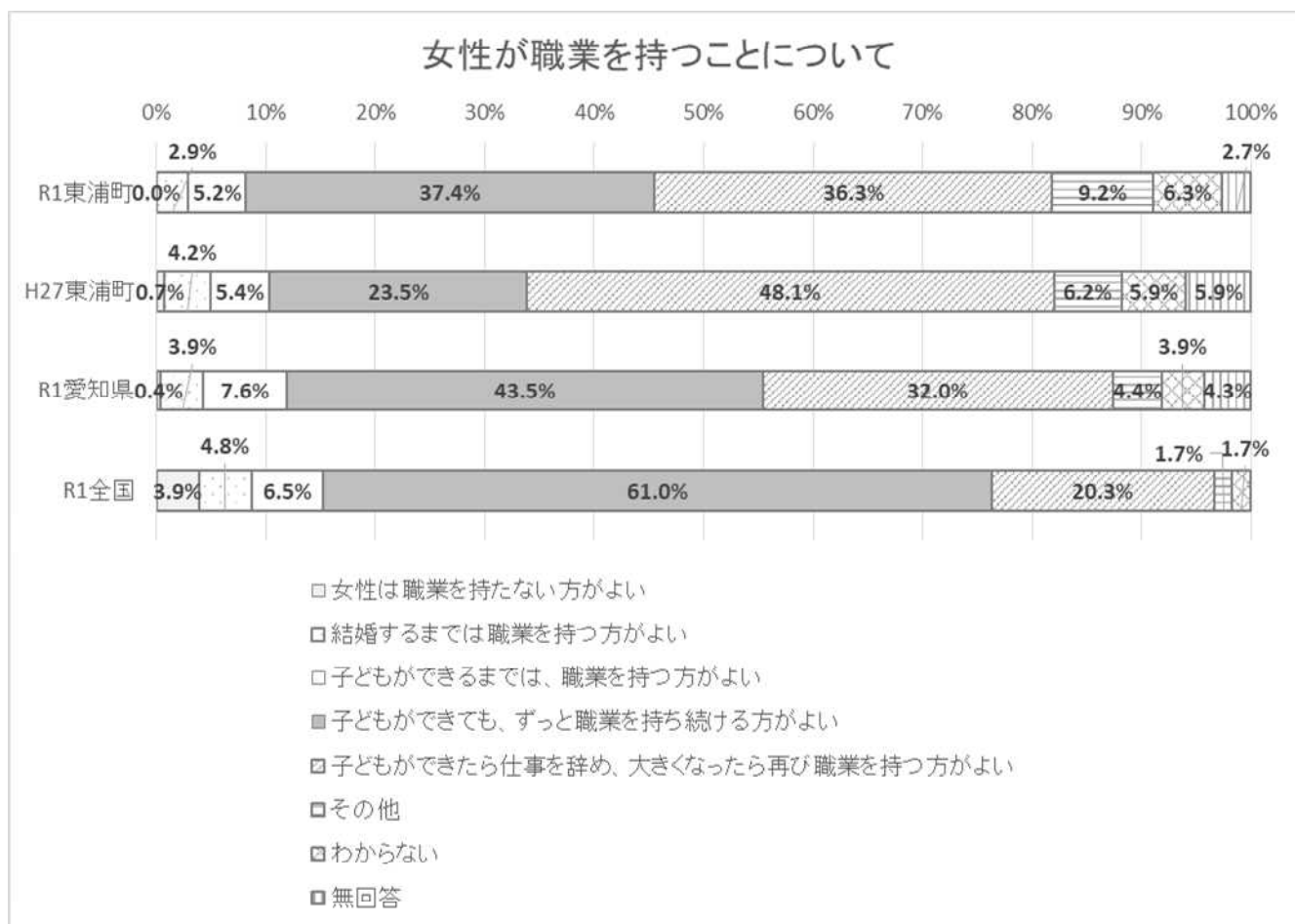
5. 就業をめぐる状況

女性の年齢階級別労働力率を国及び県と比較すると、東浦町のグラフはいわゆる「M字カーブ」のくぼみ（結婚や出産を機に女性が離職することによる労働力率の低下）が、深くなっています。



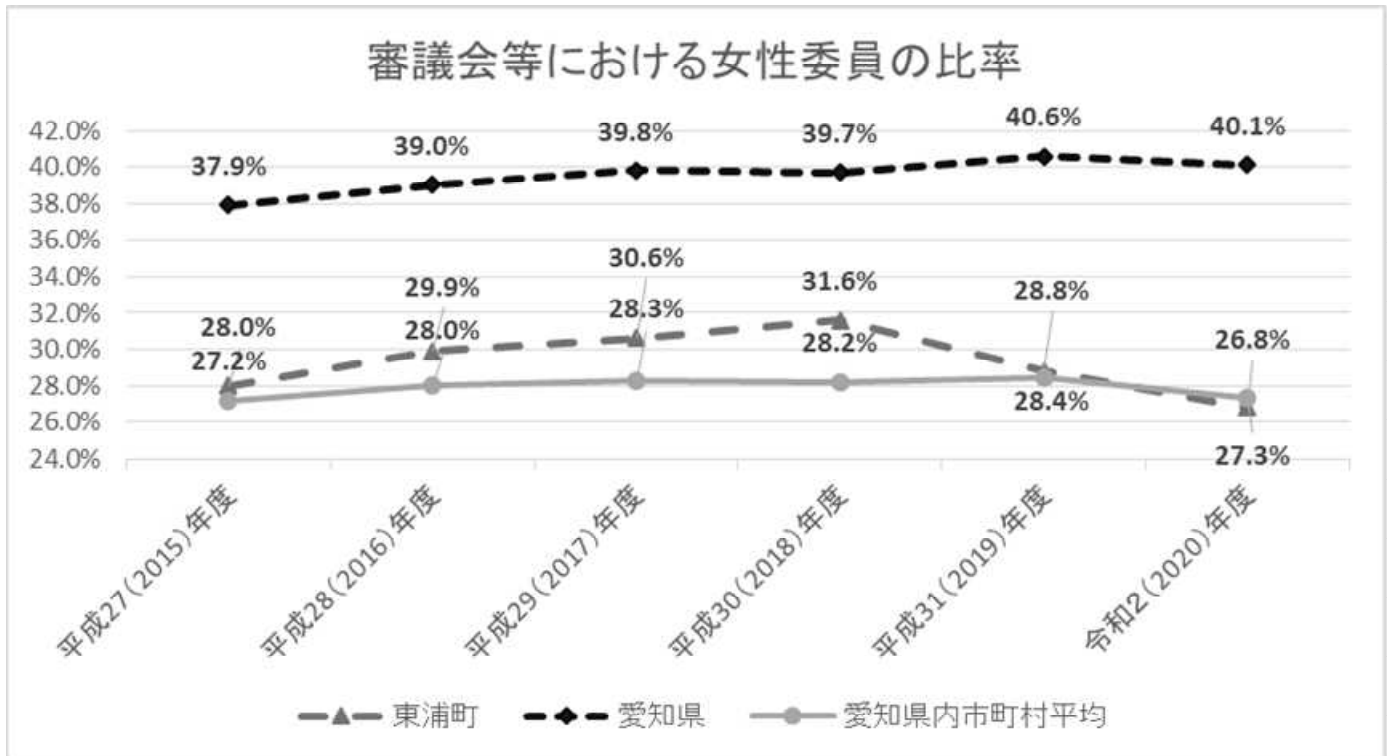
※平成27年国勢調査 就業状態等基本集計を基に作成

「一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか」という設問に対し、東浦町の調査結果を愛知県、国の調査結果と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」の割合は少なく、「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が多くなっています。本町では、女性は出産を機にいったん離職した方がよいという考えが根強いことがわかります。



6. 女性の政治参画の状況

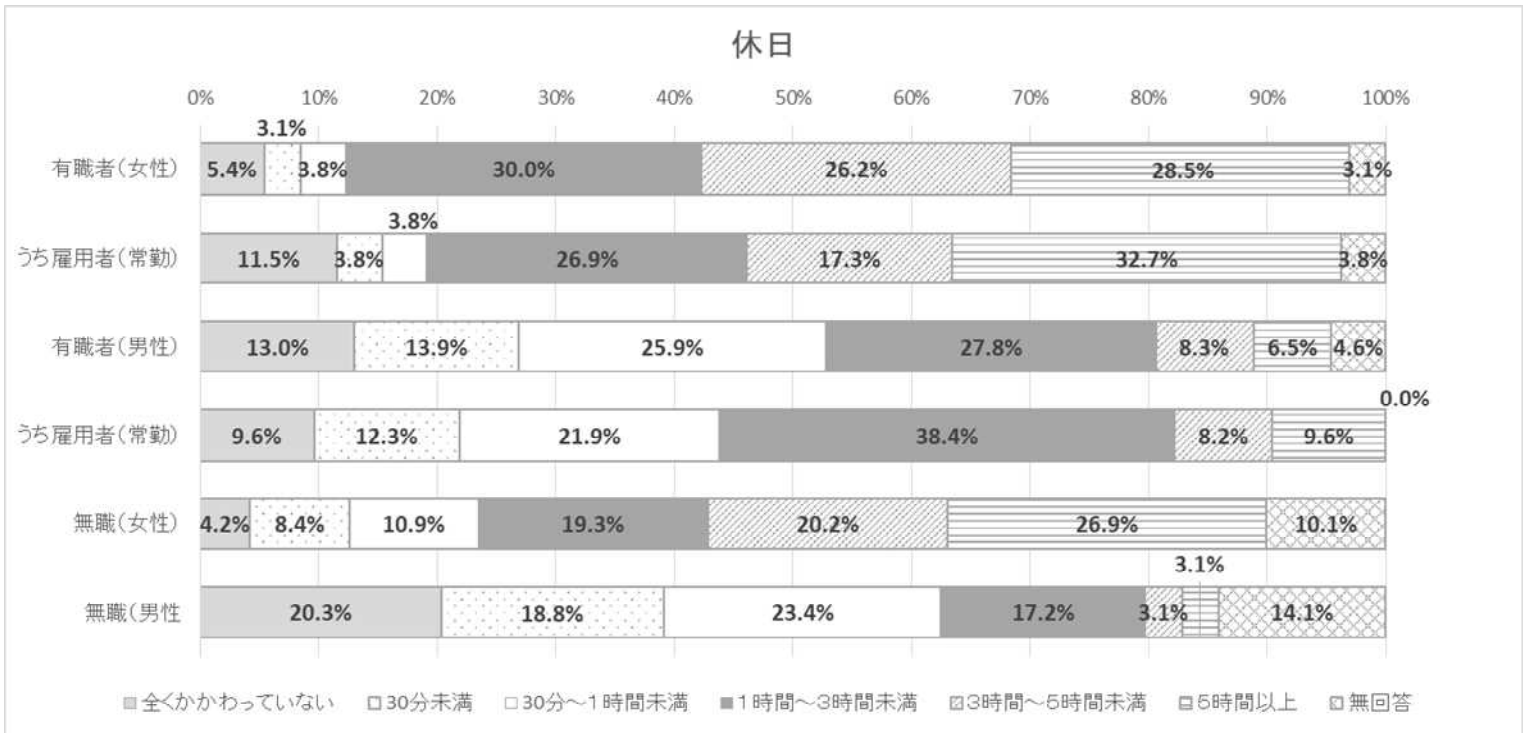
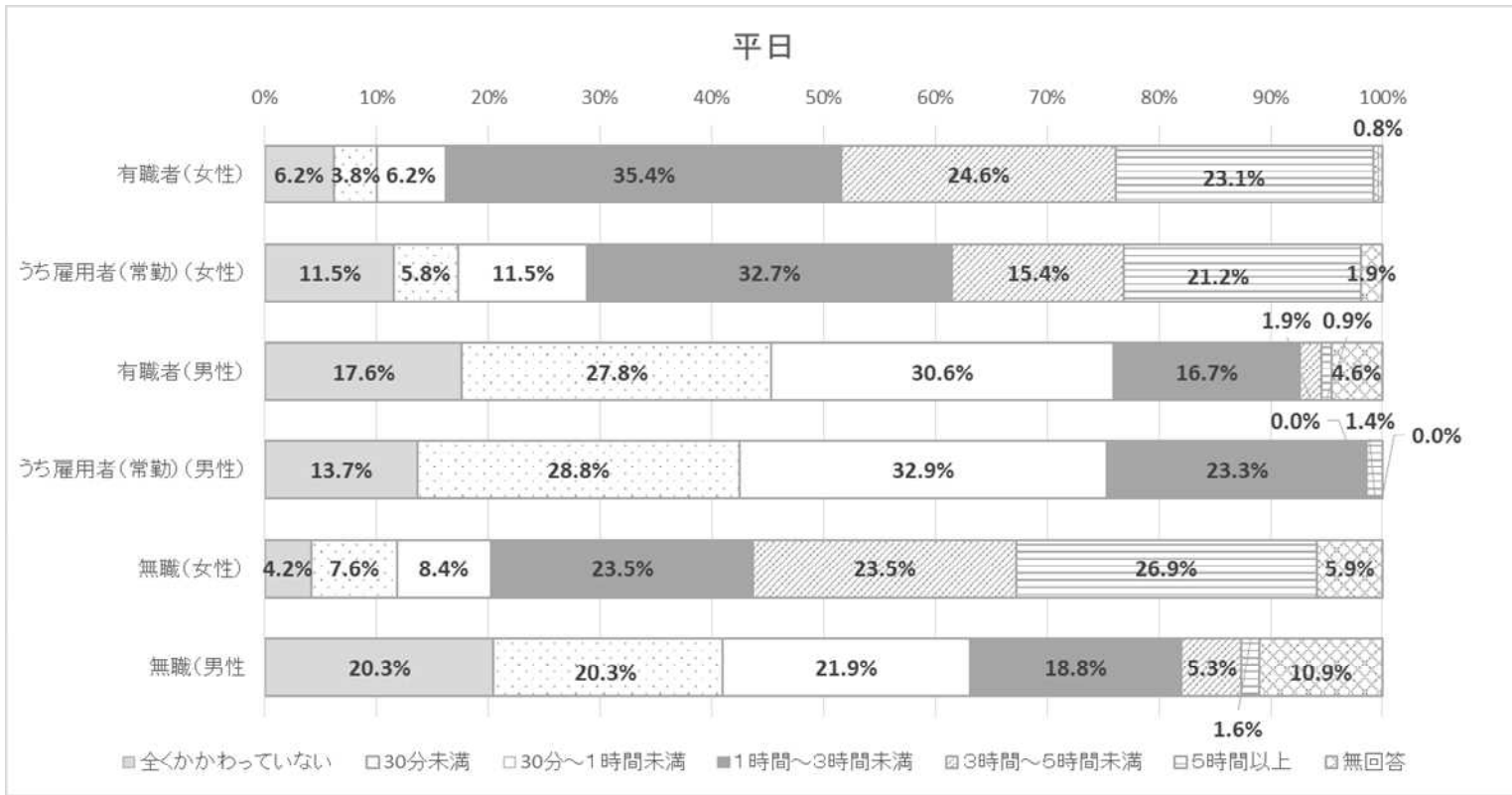
東浦町の審議会等委員への女性の登用率の推移を、県及び県内市町村の平均値と比較しています。東浦町は平成31年度（2019年度）までは県よりは低いものの、県内市町村平均よりは高い登用率で推移していましたが、平成31年度（2019年度）、令和2年度（2020年度）は割合が減少し、令和2年度（2020年度）には県内市町村の平均を下回っています。



※内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」を基に作成

7. 男性の家庭参画の状況

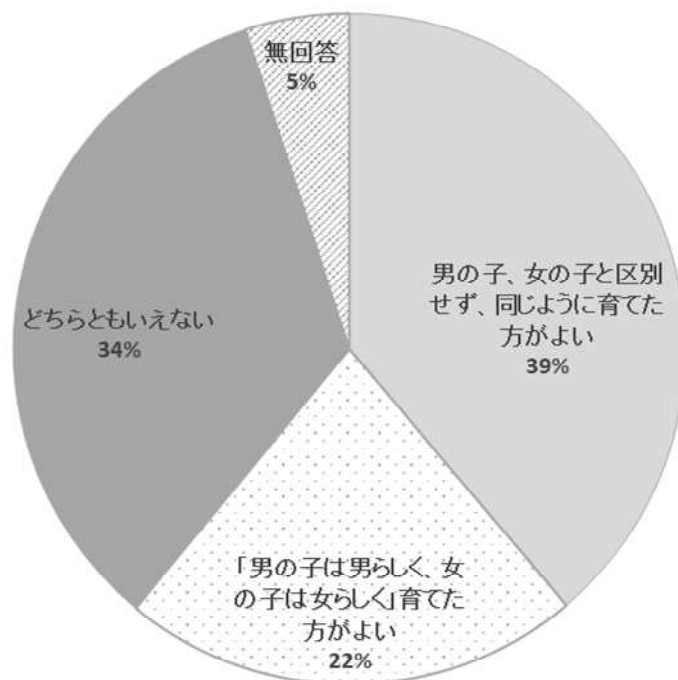
「あなたが家事、育児、介護に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。」という設問に対する回答をそれぞれ男女別、有職・無職の別に見ると、全体に家事、育児、介護の従事時間は女性の方が男性より長い傾向にあります。常勤の雇用者に限った場合でも、女性の場合は平日に「1～3時間」と回答した人がもっとも多いのに対し、男性の場合は「30分～1時間未満」が最も多くなっています。



8. 子どもの育て方

「あなたは『男の子は男らしく、女の子は女らしく』という育て方についてどう思いますか」という設問に対し、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した人が39%、「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」と回答した人が22%となっています。

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方について



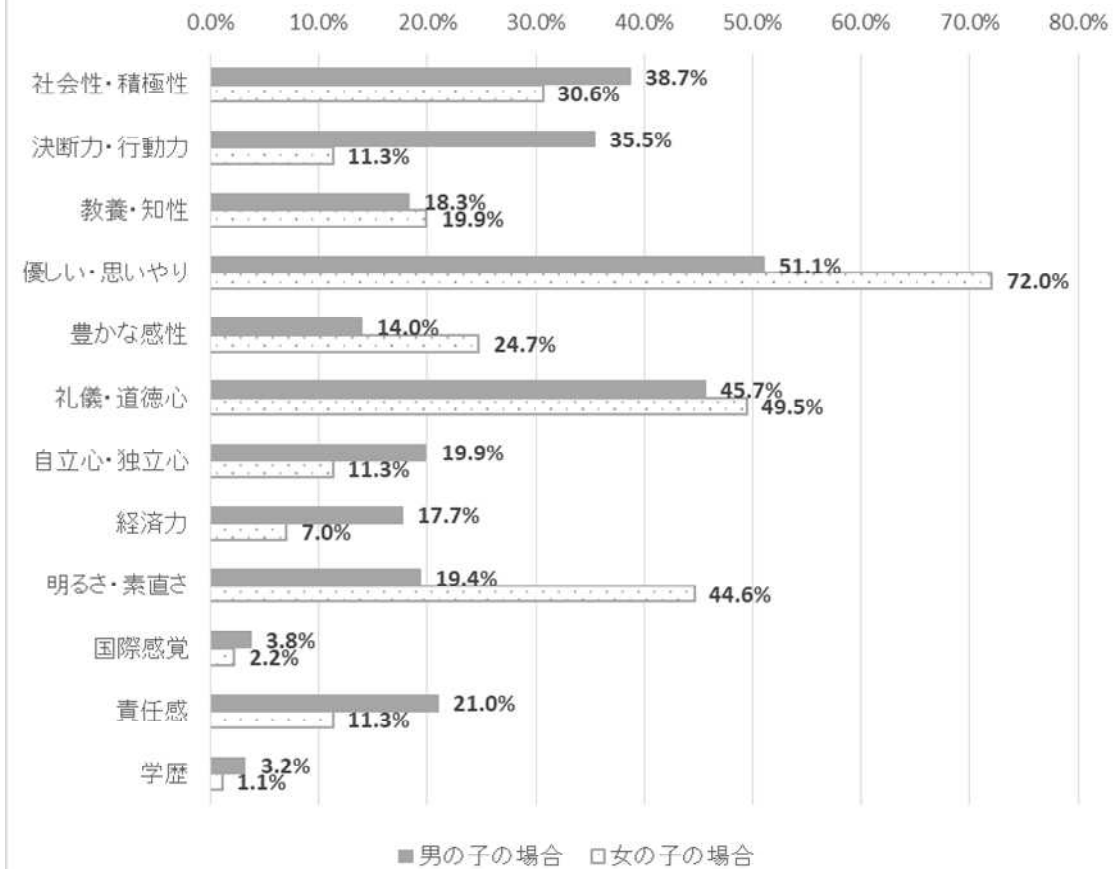
また、「あなたは、子どもに対し、どのようなことを身に付けてほしいと思いますか」という設問に対し「男の子の場合」「女の子の場合」それぞれについて尋ねたところ、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した人でも、男の子の場合は「決断力・行動力」、「経済力」、「社会性・積極性」、「責任感」を求める傾向があり、女の子の場合は「明るい・優しさ」、「優しい・思いやり」を求める傾向があります。

「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と思っている、子どもに身に付けてほしいことを聞かれると、男の子と女の子で違った項目を

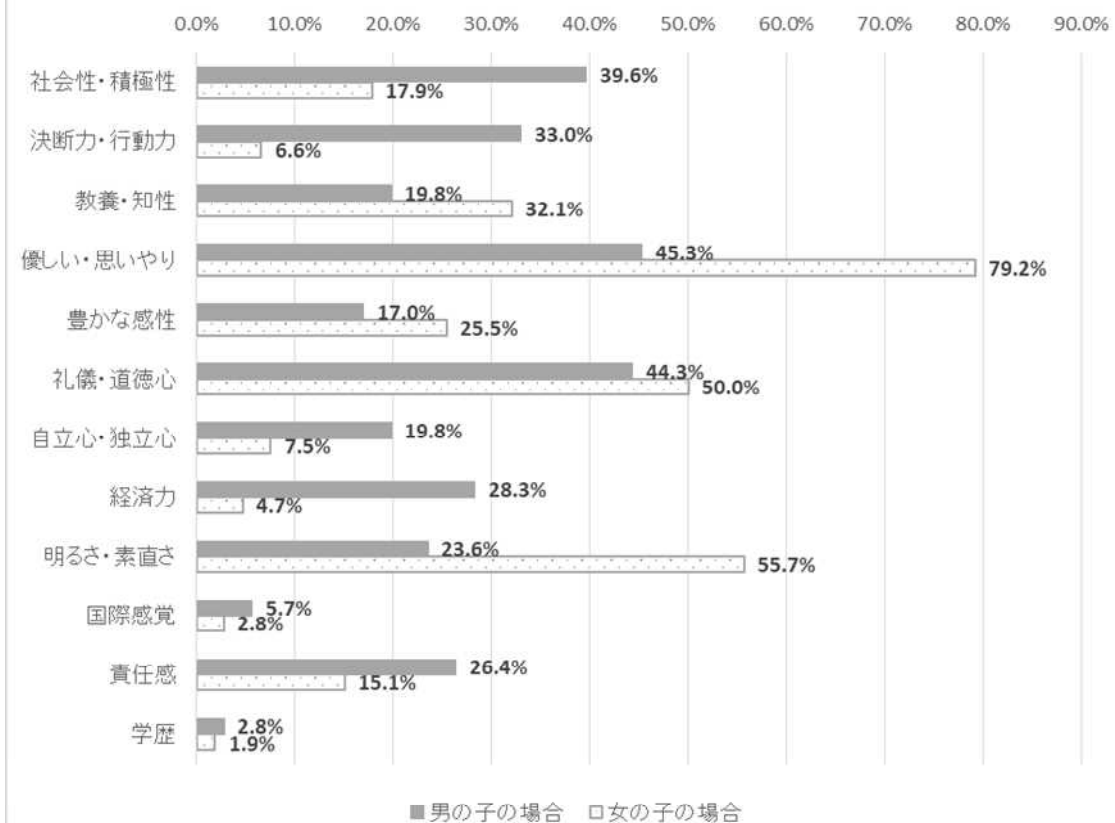
回答する背景には、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス²）が潜んでいると考えられます。

² アンコンシャス・バイアス 無意識の偏見。自分自身でも気づいていない、ものの見方や捉え方の歪み。

子どもに身に付けてほしいこと (同じように育てる)



子どもに身に付けてほしいこと (男らしく、女らしく育てる)



9. 第2次東浦町男女共同参画プラン 中間見直し版の評価

基本目標	基本成果指標	策定時	目標値	現状値	目標達成率
		平成27年度 (2015年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度 (2020年度)	
I 男女共同参画の意識づくり	用語「男女共同参画」の認知度	30.1%	35%	51.7% (2019年度)	147.7%
	町職員に対する男女共同参画に関する研修会の実施回数	1回	1回	0回	0%
	「男女共同参画」に関する講演会の開催回数	2回	3回	0回	0%
	地域への人権啓発活動	5回	6回	1回	16.7%
	男女の地位について、平等感の割合	17.3%	20%	16.5% (2019年度)	82.5%
	「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成の割合	47.2%	37%	35.1% (2019年度)	94.9%
II 働きやすい環境づくり	本庁男性職員の育児休業取得率	0%	13%	60%	461.5%
	育児に関する相談日や講座等の開催数	47回	54回	53回	98.1%
	「家族の介護」を家族で分担する割合	32.4%	40%	21.7% (2019年度)	54.3%
	食育の関心率	81.1%	85%	75.6% (2021年度)	88.9%

基本目標	基本成果指標	策定時	目標値	現状値	目標達成率
		平成 27 年度 (2015 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	
Ⅲ 男女 ともに活 躍できる まちづく り	本庁女性職員の 役職登用率(課長 級以上)	8%	15%	15%	100%
	本庁女性職員の 役職登用率(係長 級以上)	37%	40%	34%	85%
	各種委員会の女 性委員率	27.2%	40%	27%	67.5%

10. 東浦町の課題

東浦町の現状からわかる課題は下記のとおりです。

1 固定的なジェンダー意識

「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する人は増えているものの、全国と比べると固定的性別役割分担意識が根強く残っています。

また、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と思っている人でも、無意識のうちに男の子に身に付けてほしいこと、女の子に身に付けてほしいことで異なった項目を回答しています。このようなアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を含め、性別によって「こうあるべき」という固定的なジェンダー意識が見られます。

2 女性の就業状況

女性の年齢階級別労働力率のM字カーブのくぼみが全国・県よりも深くなっており、出産を機に離職する女性が多くなっています。また、国や県と比較して、「女性は出産を機にいったん離職した方がよい」という考えが根強いです。

3 政治・方針決定の場での男女共同参画

審議会における女性委員の比率は、県や県内の市町村平均と比べて下回っています。

4 家庭での男女共同参画

家事・育児・介護に携わる時間は有職・無職にかかわらず女性の方が長くなっており、家庭内での負担が女性に偏っている傾向があります。